

## 8. 出版部門

### 8.1 出版委員会

#### (1) 委員会活動

出版委員会の活動は、引き続き、一般刊行物の出版に関して、①出版事業の企画、②出版企画の承認・調整、③出版に関する予算管理、④出版物の管理ならびに販売促進、⑤出版者との委託出版契約、⑥著作権管理、を所掌している。2014年度以降の歴代委員長は表 8.1.1 のとおりである。

表 8.1.1 出版委員会の歴代委員長（2014～2024）

| 任期（年度）    | 委員長            | 任期（年度）    | 委員長            |
|-----------|----------------|-----------|----------------|
| 2014      | 千釜 章（東北電力）     | 2020～2021 | 横山 正則（東日本高速道路） |
| 2015      | 水鳥 雅文（電力中央研究所） | 2022～2023 | 濱田 秀則（九州大学）    |
| 2016～2017 | 遠藤 元一（東日本高速道路） | 2024～     | 松野 篤二（名工建設）    |
| 2018～2019 | 嶋田 善多（電源開発）    |           |                |

出版委員会には以下の小委員会を設置している。これら小委員会は委員会活動を補完するための小委員会ではなく、刊行物の専門分野が多岐にわたっているなどの理由で主体となる委員会が存在しないために出版委員会の下に設置した小委員会である。小委員会は表 8.1.2 のとおりである。

表 8.1.2 小委員会一覧

| 小委員会／委員長                                  | 成果の概要                                                                            |
|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 土木製図基準改訂小委員会<br>大倉 一郎（大阪大学）<br>2004.6～    | 土木製図基準の JIS・ISO 等に対応した改訂を実施<br>従来は、委員会として活動してきたが、2004 年度より出版委員会の下の小委員会として活動している。 |
| 測量実習指導書編集小委員会<br>大林 成行（東京理科大学）<br>2006.6～ | 2007 年に改訂を実施<br>出版委員会の下の小委員会として活動している。                                           |

#### (2) 活動成果

##### 1) 出版会計

出版委員会は、前 10 年間で引き続き製作コストの低減、在庫管理の適正化を軸とする出版会計の健全化に取り組んできたが、2022 年以降はウクライナ情勢や世界的な社会経済問題による燃料および原材料価格の高騰が続いている。

出版会計は、刊行物（新刊・既刊）、試験器、行事テキストなどの収入から構成されている。2023 年度はコンクリート示方書の改訂年であったため黒字となった。

##### 2) 出版安定化預金の現状

出版会計は、コンクリート標準示方書の改訂による黒字年度（5 年間に 1 度）と赤字年度の落差が激しいため、2009 年 7 月に土木学会出版安定化積立預金規程を制定した。

預金額は2023年度決算においておおよそ1億7,000万円となっている。COVID-19による土木学会活動のオンライン併用などの要因により製造原価が抑えられたのが、その一因である。

### (3) 刊行物

この10年間の刊行物の一覧は資料編8. 土木学会出版物一覧に示すとおりである。この間に、コンクリート標準示方書の改訂が2回、トンネル標準示方書の改訂が1回行われ、従来と同様に出版会計の収入を支える柱となった。さらに、構造工学委員会より「土木構造物共通示方書」(2023年)、鋼構造委員会より「鋼・合成構造標準示方書」(2018年, 2019年, 2022年)、舗装工学委員会より「舗装標準示方書」(2023年)を発行した。また、これら示方書の傘下に位置付けられる指針、ガイドラインを多く発行した。

2017年には「日本土木史 平成3年～平成22年 -1991～2010-」を発行し、特に、現代土木の様相を特徴付けるテーマ・トピックスを設定して、横割りの視点で現代土木の流れを俯瞰的に記述している。



日本土木史 平成3年～平成22年  
-1991～2010- (創立100周年記念出版)

「全国土木系教員名簿〔大学・高専〕」は、1980年の創刊以来、学界における唯一貴重な名簿として、会員、土木関係者、他工学関係者等に広くご利用いただいていたが、個人情報管理の重要性を一層鑑み、土木学会員以外による、本来の主旨とは異なる名簿使用のリスクもあることを踏まえ2019年に廃刊することとした。

また、土木広報に繋がる既存の刊行物を3点発刊している。詳細は、表8.1.3 一般市民向け書籍を参照。

表 8.1.3 一般市民向け書籍

|                                                                                                           |                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ポケドボ カードゲーム</p>       | <p>広い土木のフィールドの中でも子どもたちの生活に直結する「防災・減災」をテーマとしたゲームです。子どもたちには、遊びを通じて防災・減災の考え方や土木の大切さを伝えます。</p>                                      |
| <p>土木偉人かるた</p>           | <p>土木偉人かるたは、土木偉人を題材にかるたの形式にした「土木史」の入門資料です。48人の土木偉人进行かるたにし、土木偉人と土木偉人の代表する功績を絵札にしました。楽しく遊びながら、土木偉人が行ってきた功績と土木事業への熱い思いを覚えられます。</p> |
| <p>鉄道インフラメンテナンス図鑑</p>  | <p>日本初の「鉄道インフラメンテナンス図鑑」を発刊しました。図鑑では、特に、土木構造物と軌道がどのように守られているのか、新しい事例とともに紹介しています。</p>                                             |

#### (4) 電子書籍

電子書籍化については、これまで出版委員会でも多くの時間をかけて議論・検討してきた。試行的には、「2007年制定コンクリート標準示方書（施工編）」のPDFデータをコンピュータシステム研究所が開発した施工計画書作成支援システム「E-HELIOS」へ搭載した。その後、「2012年制定コンクリート標準示方書（施工編）」、「2017年制定コンクリート標準示方書（施工編）」を「E-HELIOS」への搭載を継続したが、近年の売上減少に伴い、「2023年制定コンクリート標準示方書（施工編）」より「E-HELIOS」への搭載を終了した。

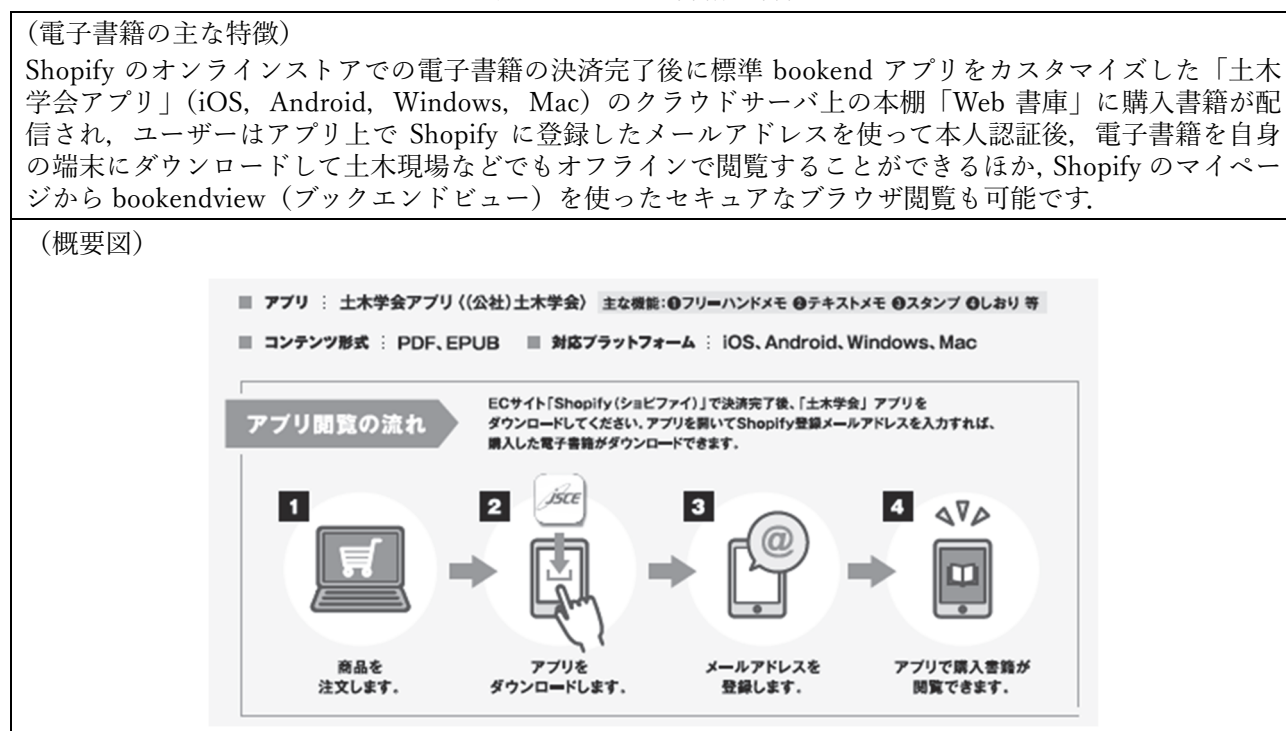
2015（平成27）年度事業計画に「(4)会誌その他土木工学に関する図書、印刷物の刊行【公1】：電子出版の試験的導入（構造工学委員会、丸善出版と連携）」を提示し、構造工学委員会および丸善出版協力のもと、構造工学シリーズ24「センシング情報社会基盤」を電子書籍化して試験販売する準備が整い販

売を開始した。

電子書籍の導入について引き続き検討を進めた。2022 年 1 月には会員の皆様やユーザーの皆様の要望を受ける形で、コンクリート委員会協力のもと、アイドック社の Bookend をカスタマイズしたコンクリート標準示方書「設計編」および「施工編」（2017 年制定版）の電子書籍化を行い、電子書籍の試行販売を開始した。

2022 年制定コンクリート標準示方書〔基本原則編〕・〔設計編〕・〔維持管理編〕と 2023 年制定コンクリート標準示方書〔施工編〕・〔ダムコンクリート編〕・〔規準編〕については、電子書籍による本格的な試行販売を開始した。

表 8.1.4 電子書籍の特徴



## (5) 試験器関係

この 10 年間で、試験器の価格が高騰している。背景として 2019 年頃は材料納品業者の廃業、本体・付属製品のコスト上昇が理由であったが、2021 年に入り銅の価格高騰、2022 年入ってからは COVID-19 およびウクライナ情勢の長期化などの世界的な社会経済問題により、銅・鉄・油その他あらゆる材料・運搬費などの価格が高騰したことによる。

表 8.1.5 試験器の価格の推移

| 商品名    | 2019 年 9 月以前 | 2019 年 9 月 | 2021 年 1 月 | 2021 年 11 月 | 2022 年 9 月 |
|--------|--------------|------------|------------|-------------|------------|
| J14 漏斗 | 50,475 円     | 51,000 円   | 64,000 円   | 82,000 円    | 98,000 円   |
| JA 漏斗  | 56,000 円     | 57,500 円   | 71,000 円   | 89,000 円    | 110,000 円  |
| JP 漏斗  | 50,475 円     | 51,000 円   | 64,000 円   | 82,000 円    | 98,000 円   |

※本体価格(税抜き)

## (6) 規則の制定・改正

「著作権に関する規則」は2014年9月に制定した。制定にあわせ、「著作権に関するFAQ」を作成、公開した。また、2022年5月に論文集編集委員会より国際化が進む中、日本の優れた研究成果がいち早く海外の英文ジャーナルへ投稿される傾向が続いていること、論文集編集委員会としては、海外ジャーナルに投稿された英文論文の翻訳論文を2次出版として土木学会論文集に受け入れたいとのことから「土木学会著作権に関する規則」の改正について依頼がなされた。法律的な文言を弁護士と相談し、出版委員会の議を経て、2023年3月の理事会において一部改正となった。

## (7) 翻訳出版の許可

アジア圏を中心とする海外から土木学会出版物を自国語に翻訳して配布したいという申請があり、この10年間で8件の翻訳出版を許可した（翻訳出版物の一覧は資料編8.土木学会出版物一覧 8.1 本部出版物（3）翻訳出版物を参照）。

## (8) 今後の課題と展望

この10年間の出版会計はコンクリート標準示方書の発刊やCOVID-19による土木学会活動のオンライン併用などの要因により改善されてきている。しかしながら、世界的な社会経済問題による燃料および原材料価格の高騰が続いていること、国内では物流の2024年問題に直面するなど、出版界を巡る状況はますます不透明である。

この10年間に発行した出版物の特徴として、専門技術者向け以外に一般市民向けの出版物を発行したことが挙げられる。しかし、書店の減少や労働人口の減少による影響により、販売部数は結果的に伸び悩んだものが多かった。また、COVID-19によりライフスタイルが変わり電子書籍に対するニーズが急速に早まったことも挙げられる。ただし、電子書籍の普及がどの程度の速さで進むのかまだ現状を把握・予測できておらず、引き続き出版委員会にて検討する方針である。

（本丸哲也）